

とりこ
と
ことりこ

二匹の三毛猫の物語



スイスに住んでいる日本人夫婦のもとに遊びに来ていた一匹の老猫がおりました。彼らは彼女にトリコという名前を付けてかわいがっていました。



首輪もしていないし、すごい痩せこけているし、もしかしたら野良ネコなのかも...そう思い、二人は飼うことにしました。



飼うことにした二人は首輪をつけて外に出しました。
するとこわそうなおじさんがやってきました。



彼は「彼女はうちにも遊びに来て、あまりに病気もひどいから病院に連れて行った。

おたくが飼うなら費用を払ってもらおう」怖そうなおじさんは知らない猫を病院につ入れていく優しいおじさんでした。



二人は「わかりました」と言って払うことにしました。
その帰ってきたトリコの首には手紙がついてました。



手紙にはドイツ語で

「私の名前はサマアといいます。**前の**飼い主が今私がどこにいるのかとても心配しています。ここに電話してください」

ドイツ語ができない二人はさっきの病院に連れて行ったおじさんの家に行って相談します。

そして電話で

餌をあげないでほしい
夜に遊びに来たら連絡してほしい

ということを飼い主から告げられました

スイスに来たばかりでテレビもネットもない。
そんなつらい時期に一緒にいてくれたトリコ。





飼うと決めた夜、外に出たがっているのを必死に無視していると、夫婦のベッドに登ってきて一緒に寝たトリコ。



はじめてのトイレにかなり戸惑いながらちゃんと用を足すトリコ。



奥さんは悲しくて泣いてしまいました。



そのなか、何食わぬ顔で遊びに来るトリコ。
家に入れることはできません。
だんだん寒くなってきても、心を鬼にして中に入れません。
トリコはほかの家の猫。

そのうち、遊びに来なくなりました。
近所でも見かけることがなくなりました。

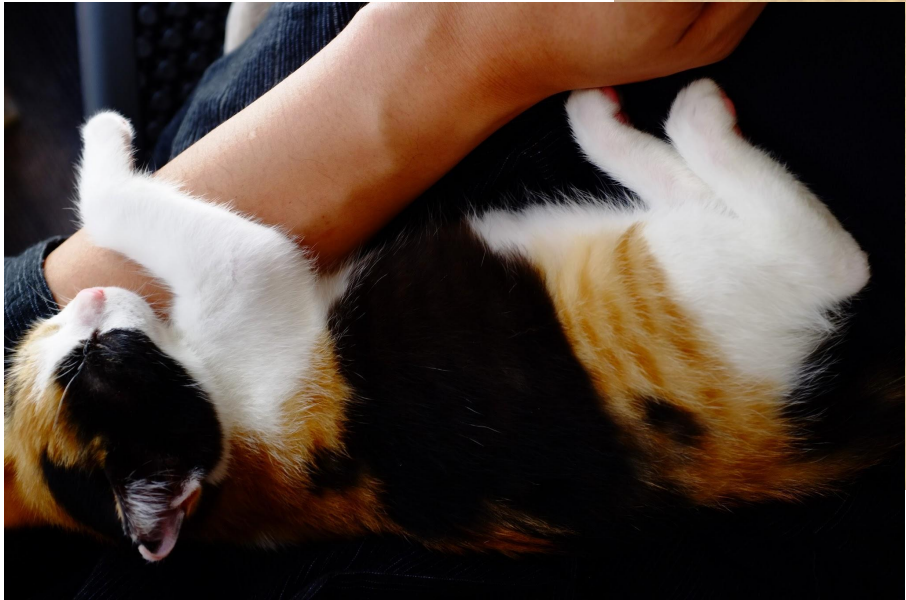
しばらくすると、トリコの飼い主の家に新しい猫がやってきているのを見ました。
17歳くらいだし、寿命だったんだね..そう言って二人は悲しみました。



日本に帰ってきた二人は、ちゃんと猫を飼うために物件を探しました。
そして引っ越しして数か月後、近所の獣医さんの張り紙に「里親募集」の張り紙が...赤
ちゃん猫の同じ三毛猫...

ちょっと運命を感じた二人は早速連絡し
「ことりこ」
という名前を付けて大切に育てました。

小さいトリコ。コトリコ。





1歳になり大きさもトリコより一回りくらい大きくなりました。